



伊那市議会3月定例会では51議案と請願・陳情2件、議員提出議案4件が提案され審議を行いました。今定例会に上程された議案と請願・陳情を紹介します。

全会一致で可決した議案など

(人事案件)

◆人権擁護委員候補者の推薦

(一般案件)

◆箕輪町、南箕輪村との伊那地域定住自立圏形成に関する協定の変更
◆財産(建物)の譲与 2案件 ◆市道路線の廃止、変更及び認定 5案件

(条例案件)

◆特別職の職員の給与等に関する条例及び非常勤消防団員の定員、任免、給与、服務等に関する条例の一部改正
◆太陽光発電設備の設置等に関する条例 ◆仕事と子育ての両立支援施設条例
◆城下町観光交流施設条例 ◆横山バイクパーク施設条例 ◆屋外広告物条例
など合計20案件

(令和3年度補正予算案件)

◆一般会計 2案件、特別会計5会計(国民健康保険(国保)、国保直営診療所(国保直診)、後期高齢者医療(後期)、介護保険(介護)、公有財産管理活用事業)、事業会計3会計(水道、下水道、自動車運送)

(令和4年度当初予算案件)

◆特別会計5会計(国保、国保直診、後期、介護、駐車場)、事業会計3会計(水道、下水道、自動車運送)

(請願・陳情)

◆ミャンマーにおける軍事クーデターを非難し民主的な政治体制の早期回復を求める請願

(議員提出議案)

◆ロシアによるウクライナへの侵略に断固抗議する決議
◆ミャンマーにおける軍事クーデターを非難し民主的な政治体制の早期回復を求める意見書の提出

賛否の分かれた議案など

議案、委員会結果に賛成…○ 反対…× (なお、原則として議長は採決に加わりません。)

区分	件名	委員会結果	委員会における審査結果に対する各議員の賛否(議員提出議案については本会議における各議員の賛否)															本会議結果					
			池上直彦	小林眞由美	田畑正敏	馬場毅	原一馬	松澤嘉	三澤俊明	宮原英幸	白鳥敏明	二瓶裕史	野口輝雄	唐澤千明	唐澤稔	宮島良夫	飯島光豊		黒河内浩	柴満喜夫	前田久子	柳川広美	飯島尚幸
条例案件	◆伊那市一般職の職員の給与に関する条例及び伊那市一般職の任期付職員の採用等に関する条例の一部を改正する条例	可決	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	×	○	○	可決
令和4年度当初予算案件	◆令和4年度伊那市一般会計予算について	可決	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	×	○	○	可決
	◆令和4年度伊那市公有財産管理活用事業特別会計予算について	可決	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	×	○	○	可決
請願・陳情	◆森友改ざん問題、国会で真相究明を(陳情)	不採択	○	○	○	×	○	○	○	○	×	○	○	○	×	×	○	○	○	×	○	○	不採択
議員提出議案	◆戸草ダムの建設実施時期の早期検討を求める決議について	付託省略	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	×	○	○	可決
	◆国に対して緊急的に住民の生命と財産を守る治水対策の更なる推進を求める意見書の提出について	付託省略	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	○	×	×	否決

3月定例市議会

一般質問から

伊那市議会3月定例会の一般質問は、3月8日、9日、10日の3日間にわたって行われ、19人の議員が質問に立ちました。質問と答弁の主な内容をお知らせします。

野口輝雄



来年度の当初予算に係る伊那市の「福祉の棚卸し」について

野口輝雄議員 今後の伊那市の最重要施策は福祉、子育て、教育の3つと考える。市長が来年度に福祉を最優先課題にしている思いは。

市長 これまでの福祉の総点検(再確認)をし、すべての市民に漏れない福祉を届けたいの思いである。

小学校の給食費の無料化について、まずは、第3子以降の児童から実施する提案

野口輝雄議員 福祉の棚卸しに関わって、4年前に

提案した給食費の無料化への第二歩を本格的に検討して欲しい。

市長 学校設置者の判断で給食費の保護者負担の軽減はできるので、大きな負担となるが、第3子以降の給食費無料化については研究をしていきたい。

今年のスキー教室実施の現状とコロナ禍におけるスキー場への支援について

野口輝雄議員 多くのスキー教室が中止になった伊那スキーリゾートへ何らかの援助ができないか。

市長 伊那市唯一のスキー場であり、児童や市民の冬のスポーツ体験のできる施設として重要である。夏場利用など新たな取組みに対し、市ができることを応援していきたい。

柳川広美



保育士・学童クラブ指導員など、ケア労働者の処遇改善を

柳川広美議員 政府は、保育士や学童クラブ指導員等の給与を3%、月平均9千円引き上げ支援を行うが、市の方針は。最低月5千円値上げを。

市長 保育士など会計年度任用職員を対象に改善の方向で検討している。

子どもの「医療費窓口無料化」と「18歳まで対象」に

柳川広美議員 福祉医療制度を18歳まで外来も対象に。窓口負担を完全無料に。

市長 今年8月から、18歳までの外来を対象とし、窓口負担無料化を実施予定。

新型コロナ対策について

柳川広美議員 「小学校休業等対応助成金」について保護者に周知を。

市長 保育園・幼稚園等ではリーフレットを配布。

山小屋と

伊那市観光(株)について

柳川広美議員 馬の背ヒュッテを今なぜ購入するのか。何年で元が取れるか。観光(株)の経営改善策は。

市長 南アルプス山岳観光には重要。経営は黒字化を考えている。観光(株)の経営改善は人件費削減などに取り組んでいる。

宮原英幸



行政のデジタル化への対応について

宮原英幸議員 国の進める行政デジタル化で福祉や税に関する情報システムの統一及び自治体別の個別条例集約に関し、市の動きはどうか。

市長 国は令和7年度末統一化を進めるが、同年前伊那8市町村の総合行政システムを更新する予定で、同時に国の標準システムへ移行する。個人情報保護制度は官民統一基準の作成が求

められ、国の動向を見て適時対応していく。

宮原英幸議員 市の委託事業者への情報公開及び管理体制はどうか。

市長 業務内容に応じ情報セキュリティに関する覚書で遵守事項の確認等を行い、また個人情報保護審査会による事案類型の判断基準などで対応している。多様化する委託業務では、専門機能設置は今後の展開により考える。

宮原英幸議員 AIドリルの導入予定があるが学習履歴などの個人情報保護はどうなっているか。

教育長 ドリルは予復習で活用、各人に合った学習の基本的内容の定着を目指す。蓄積情報は高度なセキュリティを持つクラウドに保管し、事業者と覚書を締結する。

宮原英幸議員 教育機材にも利用するリース物件について、予算上の説明などが必要ではないか。

市長 今後も物品調達に有利な方法として活用するが、一定額以上のものなどは説明していきたい。

宮島 良夫



学校給食施設整備について

宮島良夫議員 伊那市は

学校給食調理場の整備に取り組んでいる。令和7年に高遠給食センターを改築予定。平成24年6月の一般質問の答弁では「総合的に見て自校方式の給食が安い」との答弁をしている。高遠の給食センターを見直し、高遠小学校、高遠北小学校に給食室を建設して自校方式にすべきだが、考えは。

教育長 平成26年策定の

学校給食整備計画では、現状の施設単位で整備していくとしている。高遠の給食センターの3校を自校方式にするということは考えていないが、学校給食のあるべき姿を検討する中で生まれてきた「暮らしのなかの食」への取組みについては、発展させていきたいと考えている。

給食調理員の正規化に向けて

宮島良夫議員 10数年

前、給食調理員は全員正

規職員であったが、現在は1人も正規職員はいない。現場からは指導のできる正規職員の調理員を置くべきとの意見も出ているが、考えは。

教育次長

伊那市では、

定員適正化計画に基づき給食技師等の会計年度任用職員化を進めてきている。現在、会計年度任用職員のI種、II種の職員を置き、I種の職員が指導に当たることとなっており、その役割を果たしている。

唐澤 稔



中心市街地活性化について

唐澤稔議員 都市計画マ

スタープランは、多くのまちづくりの方針が示されているが、この10年間の成果は。

市長 都市計画マスター

プランは、総合計画を踏まえて都市の将来像や実現のためのまちづくりの目標を明らかにし、地域別のまちづくりの方針を示すもので、都市計画の総合的な指針になっている。平成21年の

改定以降、13年間で環状道路や国道バイパスなど、都市計画道路整備に大きな成果を上げた。優良建築物等整備事業によって、山

寺区で店舗を備えた賃貸マンションが整備されたほか、現在、通り町1丁目でも事業に着手しており、まちなかへの居住が期待されている。

他にも、花の丘公園を都市公園に加えたほか、公園施設長寿命化計画を策定し、鳩吹公園など大型複合遊具の更新にも手を付けている。

スポーツ施設について

唐澤稔議員 冬期間の練習場所に関して、旧伊那中

央清掃センター跡地への検討を始めていることに対する検討経過、今後の見通しについては。

市長 旧伊那中央清掃センターの跡地利用について

は、隣接している美原公園の敷地を活用しながら、普段は屋内運動場として利用できる防災拠点施設や公園の整備を考えている。来年度、計画を具体化するための測量や基本構想を策定し、施設の規模や配置計画、スケジュールなどを決めていきたい。

唐澤 千明



みはらしファームを中心とした集客について

唐澤千明議員 ①伊那市

の農業公園みはらしファームは平成11年6月にオープン後、間もなく23年となり市の主要観光地になっている。2年以上続くコロナ禍で厳しい運営を余儀なくされているが、令和元年とこの2年間の来園者数、売上げの推移と受け止めは。②みはらしファーム「道の駅」設置に向けての考えは。

市長 ①コロナ禍によって

観光バスの来場が激減し、来園者数の減少など非常に厳しい状況にある。

農林部長 ①来園者数と売上げは、令和元年度が約51万人で約7億円。令和2年度が約22万人で約3億円。令和3年度が12月までであるが、約19万人で約2億円である。②昨年の地権者会議では、ガードレールがない通学路を大型車が通行する憂慮や24時間対応となった場合の夜間騒

音が課題に挙げられた。

市有林の管理と利活用について

唐澤千明議員 今後市の

木造建築において、市有林から搬出される木材は勿論のこと、市が地域材利用に強く関わる必要があると考えを。

市長 伊那市産材を利用

した建築には補助金を出している。市有林から出された木材は、利活用推進協定を結んでおり、公共建築物にふんだんに使われている。

松澤 嘉



令和4年度当初予算について

松澤嘉議員 当初予算に

おける福祉の棚卸しへの思いは。

市長 当初予算について、

支援が必要な人に漏れなく行き渡っているか、もう一度総点検をする必要があると判断し指示した。当初予算で対応できることを先行的に実施する。

骨格予算であるため、改善点は部分的ではあるが、今後いろいろな意見を聞きながら福祉支援策の充実を図りたい。

ぐるっとタクシーの改善について

問 松澤嘉議員 12月以降の実績は。

答 企画部長 乗車人数と乗合率は、12月は2316人で41.6%、1月は1773人で35.5%、2月は1877人で38.2%となっており順調に推移している。

問 松澤嘉議員 12月定例会以降、新しい仕組みについての検討状況は。

答 市長 担当の方で検討してきているが、業としている運行者の理解が必要。事業者との調整の中で令和4年度中に、今現在利用できていない地区で、今現在と同程度の料金で利用できるような仕組みの実証実験を計画している。

高齢者いきいき健康券の利用拡大について

問 松澤嘉議員 灯油代などへの利用範囲を広げられないか。

答 市長 今までも随時見直しをしてきている。令和4年度も現行制度から福祉用品の購入や理美容代、一部の検診費用の支払いなどに用途を拡大している。燃料費高騰や諸々の値上げの影響もあるので、灯油やペレットの購入を含め、引き続き支援策を検討する。今後も、時代のニーズにより使う人の立場に立って見直しをしていく。



田畑正敏



合併浄化槽の法定検査料補助金について

問 田畑正敏議員 令和4年度末をもって法定検査料補助金1基当たり5000円が終了するに至った経過について。

答 市長 知事指定の長野県浄化槽協会の法定検査体制が整ったことにより、伊那市浄化槽維持管理組合が行ってきた水質検査業務を協会が実施できるようにになった。

問 田畑正敏議員 令和5年度以降の浄化槽法定検査料補助終了の予定を白紙に戻

し、再検討はできないか。

答 市長 浄化槽の法定検査は管理者の義務であり、使用者があまり意識しないうちに法定検査が滞っているような状況が続くことは好ましくない。

仕事と子育ての両立支援拠点施設(旧富県南部保育園)の取組状況について

問 田畑正敏議員 改修工事は順調に進んでいるのか。

答 市長 3月中旬に完成予定である。コールセンターについては、5月から運用開始の予定。飲食テナントは、入居者の希望に沿った形で設備や内装工事を行い早期の運用開始を目指していく。

問 田畑正敏議員 この施設の愛称の考えは。

答 商工観光部長 地域に親しみやすい愛称を検討中である。



白鳥敏明



医療介護調剤薬局を結ぶ情報ネットワークについて

問 白鳥敏明議員 モバイルクリニック事業の医療機器高度化の具体的な計画は。

答 市長 今までは、慢性疾患の診療が主であったが、循環器や妊産婦等の検診も可能となる遠隔診療に対応した超音波検査装置(モバイルエコー)導入を計画している。医療機器高度化は、今後3年間の計画で取り組んでいきたい。

問 白鳥敏明議員 モバイルクリニック事業の服薬指導・薬の移送等での課題は。

答 市長 令和2年度から、薬剤師会等と連携してオンライン服薬指導を開始した。診療後に処方箋を薬局にFAXで伝えているが、薬剤情報の共有と処方箋のチェックがスムーズにできるか、低コストでの薬剤配送、リアルタイムに配送状況の確認が可能かなどが課題である。一貫通貫の医薬提供体制の構築が求められている。

問 白鳥敏明議員 医療情報連携ネットワーク「クラウド型高機能EHR」システムを、伊那地域定住自立圏共生ビジョン

協議会等において導入の検討を。

答 市長 地域医療の分析で医療圏への流出が見られることから、医療情報連携ネットワーク「クラウド型高機能EHR」導入は、市単独でなく上伊那広域や県単位が望ましい。導入には費用負担も課題であり、県や実際の利用関係者などの意見を聞くなど、情報収集に努めたい。



原一馬



少子化人口減少の取組みについて

問 原馬議員 市役所全庁あげての少子化人口減少対策について、どのような取組みをしているのか。

答 市長 住み慣れた地域で、社会の実現に向けて、様々な施策を展開している。結婚、出産、育児に切れ目のない支援、住宅補助、定住助成、通勤助成、出生祝い金の補助、若者の地元就職支援として就職面接会の開催、奨学金の返済の支援、就業・創業移住の支援をしている。今年1月に

無料職業紹介事業の許可を行政として取得、ハローワーク等と連携を図りながらUターン者、若者世代の雇用の確保にも積極的に取り組んでいく。

問 原一馬議員 日本の教育費の公的支出が低いことについて。

答 市長 国に対して、市長会を通じて教育予算の充実などの、地域の声を届けながら市独自の教育の充実を図っていく。

問 原一馬議員 働く世帯を助ける保育の充実、若い女性の働く機会を増やすための視点から、保育士の待遇を大きく改善し保育士を増員する提案について。

答 市長 国の交付事業による会計年度任用職員の報酬単価の引上げを検討している。また、ICTシステムを導入し、保育業務の改善による待遇改善をしていきたい。現場の意見を聞き、働きやすい環境づくりに取り組み、保育士確保に努めていく。

問 原一馬議員 公費による宅地分譲地内の上下水道工事について。

答 市長 下水道は、1分譲地に公共ますを1基市費で設置している。状況にあった見直しは必要。

池上直彦



長谷地域在住高校生の通学手段について

問 池上直彦議員 長谷から高遠高校への通学について。美和ダム堤体の上を通る通学路が通行止めとなっているが。

答 市長 平成30年の点検でトンネルに損傷が確認され、通行止めとしている。補修工法及び今後の管理について国土交通省と協議している。

問 池上直彦議員 長谷地域の高校生の通学手段について。昼頃の長谷循環バスが無くなり、高校生の帰宅が困難になった。ぐるっとタクシーの利用拡大の可能性は。

答 市長 ぐるっとタクシーの想定に無く、現状での利用は考えていない。

戸草ダムなどについて

問 池上直彦議員 三峰川上流域の復旧について。大曲より上部の国有林などが大荒れだが、今後の取組みは。

大曲より上部の国有林などが大荒れだが、今後の取組みは。

答 市長 林野庁などに、国有林内の道路を含め復旧要望し、関係省庁と連携して復旧事業を推進して行きたい。

問 池上直彦議員 戸草ダムの建設時期等について。

答 市長 激甚化する災害が多発する中で、戸草ダムの建設時期を検討する時期であると考ええる。

馬場毅



コロナで見たもの 個人事業主の傷病手当について

問 馬場毅議員 国保加入者にも他の保険と同等の傷病手当金導入を国へ求めるべき。

答 市長 全国市長会としても傷病手当金支給対象の拡大などを要望しているが、今後にも国に要望していきたい。

先制核兵器使用を許さない

問 馬場毅議員 唯一の戦争条約に参加して、核を使用させない世論をリードするよう政府に促すべき。

唯一の戦争条約に参加して、核を使用させない世論をリードするよう政府に促すべき。

答 市長 多くの地方議会が核兵器禁止条約の参加を求める意見書を国に提出し、国民による条約参加の要望があることは伝わっている。今後の国の判断を注視したい。

問 二瓶裕史



防犯灯の設置費・電気料金について

問 二瓶裕史議員 防犯灯は市民の安全安心な生活に直結し、良好な地域環境を作る上でも必須である。全額伊那市で負担できないか。

答 危機管理監 各自治会で必要に応じて設置をしているものなので、直接管理することは考えていない。

行政事務連絡員について

問 二瓶裕史議員 業務が多く負担が大きいと聞けが、今後の行政事務連絡員の在り方は。

答 市長 業務の負担軽減については、今後もさらに進めて行きたい。

これまでの提案の「その後」について

問 二瓶裕史議員 ①テレワークの推進を図るため、内部決裁の押印廃止、テレワーク手当の導入を。②投票率向上策について。

答 市長 ①電子決裁システムの導入を検討したが、費用面等、調整が整わず導入を見送っている状況である。

企画部長 ①テレワーク手当については通勤手当との相殺という考えである。

選挙管理委員長職務代理者

②若者に対する積極的な啓発を行っている。また、4月の選挙からモバイル市役所を活用した移動期日前投票所を設置する。

三澤俊明



消防団協力事業所について

問 三澤俊明議員 現在伊那市にある消防団協力事業

所登録条件の一つである2名以上の団員を抱える事業所数は何社あるか。またこの制度ができた



問 平成20年当時は何社であったか。

答 危機管理監 2名以上の団員を抱える協力事業所数は現在11社である。制度が開始された当時は35社あったが、消防団員数の減少に比例して団員を雇用する事業所も減少傾向にある。

問 三澤俊明議員 協力事業所名を伊那市のホームページで公開することは可能か。

答 市長 企業の社会的信頼性の向上やCSRも含めて、公開する方向で進める。

UJターナー求職者との就業マッチングの今後の展開について

問 三澤俊明議員 12月の一般質問で人手不足に悩む市内事業者とUJターナー求職者との就業マッチングを提案したが、その後の動きはあるか。

答 市長 移住希望者に対してワンストップで仕事の案内ができるように、1月に無料職業紹介所の資格を取得し、新年度から職業あっせんを開始する。

飯島光豊



伊駒アルプスロードと市道・県道の道路改良について

問 飯島光豊議員 ①伊駒アルプスロード天竜川渡河橋完成で東春近へ流入する交通量は1日約14800台となるか。

答 市長 ①伊駒アルプスロードの二部供用開始で渋滞や混雑が予想されるので県道・市道の早期改良を。②市の東春近東原工業団地の拡張で更に渋滞や混雑になる。県道と市道南部線の交差点等改良を。③県の春近発電所の改修工事に伴う市道・県道の早期改良を。④「危険な通学路」の市道の172か所はいつまでに改良するか。

問 市長 ②地元の意見を伺いながら調査等検討していく。

答 市長 ⑤令和4年度に34か所、令和5年度に43か所、令和6年度以降に13か所改良する。令和5年度に市道中組殿島橋線ではグリーンベルトやカーブに歩道などを確保する。

建設部長 ②県道や市道の交

差点改良は調査を進めており、国と県と市で相談しながら対応する。③市道南部線と県道の交差点改良は県と相談していく。④春近発電所改修の道路拡幅は南信発電管理事務所と県の協議を進めていると聞いている。

国の米の転作政策転換への憤りについて

問 飯島光豊議員 国は今後5年間に水張り(水田作付)を行わない転作田は「水田活用直接交付金」の対象外にする

答 市長 地域の実情を調べ、J Aと連携し国に要望しなければならぬ。

柴満喜夫



伊那北高校、伊那弥生ヶ丘高校の統合(伊那新校)開校と伊那北駅周辺の再活性化について

問 柴満喜夫議員 伊那北高校と伊那弥生ヶ丘高校の統合により、伊那北駅周辺に再活性化の機運が高まることを考えられる。新産業技術を活用した都市機能の整備について調査・研究する考えは。

答 市長 伊那市でも自動運転ができるバスの実証実験を行った。取組みとしての可能性は高い。伊那北駅と共に伊那市駅を含めた地域振興や周辺にぎわいを考えなければならぬ。

問 柴満喜夫議員 整備のためには、若い人に魅力を感じてもらおうエリアにすることが重要だが、市の見解は。

答 市長 高校生以外にも各地から学生が集まってくることを意識したまちづくりと捉え、既存のものだけで考えるのではなく、白紙からつくり上げる作業が大事だと思う。

第二期伊那市新産業技術推進ビジョン策定について

問 柴満喜夫議員 どのような事業の推進を図っていくか。

答 市長 第二期ビジョン策定に当たっては、国の方で進めているデジタル田園都市国家

構想において、デジタル化の動向、最新の技術の動向、これを反映して地域の企業、住民の意向など調査しながら、伊那市の実態に即した計画とする予定。第二期ビジョンでは、これまでと同様、福祉の視点を盛り込み、誰一人取り残さない持続可能な伊那市とするための方策を基本としたものにした。

小林眞由美



公共の利益につながる福祉のまちづくりについて

問 小林眞由美議員 女性が結婚、妊娠、出産、子育てがしやすくなる支援を。

答 市長 関係機関と連携し、切れ目のない支援に取り組んでいる。令和4年度には女性相談体制を充実する。

問 小林眞由美議員 若年層が安定した収入が得られる正規社員雇用促進策を。

答 市長 企業誘致における進出企業等への職業紹介(仕事探しサポート)や将来像を意識できる市内の仕事情報の提

供で手助けしたい。

問 小林眞由美議員 障害者の自立を考えた生活基盤づくり支援について。

答 市長 国の就労支援制度のほか、農・林・民福連携で健常者と同じような収入が得られる仕組みづくりを考え、社会全体で支えていきたい。

問 小林眞由美議員 ひとり親家庭の安定した生活環境づくりの取組みを。

答 市長 多種の制度活用のほか、地域や企業と連携して行う食料、学習支援や学用品のリサイクルなど必要とされていることに可能な限り取り組む。

男女共同参画部門と防災部門の連携について

問 小林眞由美議員 避難所運営に女性の配置を。

答 危機管理監 多くの女性が活動できるようマニュアル等見直したい。

問 小林眞由美議員 毎年避難所開設訓練の実施を。

答 危機管理監 避難所開設訓練は重要。地域が一体となって訓練を実施している地区などの紹介をして横展開していきたい。

前田 久子



デジタル社会の構築について

問 前田久子議員 ①住民票等各種証明書のスマホ申請について②道路の不具合や遊具の故障をスマホで市へ通報する道路通報システムの導入について③スマホアプリを見せるだけで良いデジタル障害者手帳「ミライロID」の導入について④高齢者がスマホを使いこなして安心便利な生活をするための高齢者向けスマホ教室の開催を。

答 市長 ①市民サービスの二環として実施を検討する。②先進地の費用対効果を確認して検討する。③当事者のニーズを把握したい。④モバイル公民館を展開する予定。その中でスマホ教室にも取り組みたい。

問 伊那中央清掃センター跡地利用について

答 前田久子議員 竜東地区防災拠点施設が建設されるが、UD(ユニバーサルデザイン)公園など、全ての市民が憩える

安心安全の公園を望む。

問 飯島尚幸 防災公園として普段は体育館として使え、遊具等大規模リニューアルを行う。早い段階で進めていく。

飯島 尚幸



福祉政策の充実について

問 飯島尚幸議員 新生児の聴覚検査について、難聴児の早期発見・早期療育を総合的に推進するため、伊那市でも検査費用の公費負担ができないか。

答 市長 新生児の聴覚検査は重要なことであり、来年度6月議会には、補正予算により公費負担ができるよう考えていく。

外国都市との友好促進について

問 飯島尚幸議員 伊那市は令和元年に、北欧フィンランド共和国北カルヤラ県と林業・森林産業・再生可能エネルギーなどの分野で双方に有益な交流、協力関係を築くとして覚書を交わし、3年目となる。今後、学生レベルの交換留学制度など教育的投資の考えは。末永いお付き合い

のため友好都市提携への見解は。
答 市長 覚書を交わす際、先方の長官とも若い人材や関係者の相互交流を強力に進めると約束している。教育の場

お知らせ

請願・陳情

請願・陳情は、定例会開会前に開催される議会運営委員会前日正午までに提出されたものを、その定例会で原則審査します。

ご提出いただきました請願・陳情は、定例会本会議で委員会へ付託し審査します。本会議での委員長報告後、採決します。

次回6月定例会審査の受理期限は、5月26日正午です。(期限は、変更となる場合もあります。議会事務局へご確認の上ご提出ください。)

傍聴にお越しく下さい

市議会は、どなたでもお気軽に傍聴にすることが出来ます。お越しく下さい。

議会中継

議会中継は、伊那ケーブルテレビ「伊那市チャンネル」で放送しています。再放送も行っていますので是非ご覧ください。

チャンネルは次のとおり。

デジタル 11 チャンネル

STB(デジタルチューナー)でご覧になる場合は

デジタル C 511 チャンネル

QRコードについて

議員の写真下にあるQRコードを読み取ると、一般質問の動画が閲覧できます。ご活用ください。

※「QRコード」は機内インターネットの登録商標です。

次回6月定例会の詳しい放送予定は、「市報いな」6月号をご覧ください。



令和3年度の経済建設委員会

当委員会は令和2年5月に「瓶裕史(委員長、馬場毅(副委員長)、飯島尚幸、唐澤千明、松澤嘉、原三馬、池上直彦の委員7人で発足し、定例会などでの農林業や商工業の育成、観光の振興、道路・河川・市営住宅の整備や管理、上水道や下水道の整備や運営などに関する議案審査のほか、次のような活動を行ってきました。

委員会の研究テーマ

約2年前から続くコロナ禍において様々な活動が制限されるなか、令和3年度は「いまこそ伊那市の魅力を再発見しよう」をテーマとし、市内の各施設などを調査研究することとしました。



鹿嶺高原

《市内視察》

◆北沢峠こもれび山荘

利用状況など、山荘管理者より説明を受けました。

長期にわたるコロナ禍と、南アルプス林道バスの北沢峠までの運転休止による影響は非常に大きく、さまざまな工夫をする中で営業を続けているお話を伺いました。

◆鹿嶺高原

南アルプス観光開発の第二歩として鹿嶺高原への展望テラス設置を提案要望してきた伊那商工会議所職員から、その経過や調査結果、将来のありべき姿について説明を受けました。

施設の老朽化など課題はあるものの、車でたどり着くことができる場所にこれだけ素晴らしい眺望があるということ、市民にも広く知っていただくような工夫がさらに必要であると感じました。



鹿嶺高原の施設の見学

◆大聖不動明王、香福寺

三峰川氾濫を抑えるために安置された守谷貞治の代表作である「大聖不動明王」(高遠町勝間常盤橋)と、上伊那最古の創建とされる香福寺を訪れました。写真では感

じ取ることができない、繊細さと迫力に圧倒されました。多くの方に実物を見ていただきたいものです。



高遠勝間の大聖不動明王

◆小黒川溪谷キャンプ場

支配人に案内いただきながらキャンプ場内を視察しました。

現在はキャンプ場が続いていますが、将来を意識した対応が必要であること、また、施設の老朽化が課題となっており、戦略的な料金の見直しが必要とのお話を伺いました。

◆みはらしファーム

中央アルプス

マウンテンバイクトレイル

みはらしファーム内のマウンテンバイクの体験をしました。夏の豪雨により被災した現地の確認も行いました。

初級者から中上級者のコースが用意されており、老若男女楽しめる施設となりました。

さまざまな季節で違った良さを楽しめる環境があるので、おおいにPRをしていく必要性を感じました。



マウンテンバイク体験の様子

伊那市議会 令和3年度の政務活動費の報告をします。

政務活動費は、地方自治法及び条例の規定に基づき、調査研究その他の議員の「政務活動」の費用として、市議会の会派に対し、所属議員ごと12万円が年度当初に交付されます。(会派とは、市政に対して同じような考え方を持った議員の集まりで、「議会活動を共にしよう!」というグループのことです。)

政務活動費の使いみちとしては、調査研究のほか、研修、広報、広聴、資料購入などの活動が認められています。選挙運動等の「政治活動」や議員としての「公務」は対象ではないので、政務活動費を支出することはできません。

各会派では、年度末に、政務活動費の収支を議長に報告し、残金は市に返還します。収支報告書と領収書は、議会事務局(市役所2階)で閲覧することができます。

コロナ禍の折、会派の政務活動が十分にできず、返還額が多くなっています。

(金額の単位:円)

会派名	人数	年間支給額 (12万円×人数)	概算(見込み)支出額の内訳			概算 (見込み) 支出額	残金 (返還額)
			調査費等	広報費	備品購入費 (書籍等)		
平成クラブ	7	840,000				0	840,000
令和クラブ	4	480,000				0	480,000
日本共産党	3	360,000		214,721		214,721	145,279
新風会	3	360,000			20,020	20,020	339,980
公明党	2	240,000	93,949			93,949	146,051
新政クラブ	2	240,000	197,960			197,960	42,040
合計	21	2,520,000	291,909	214,721	20,020	526,650	1,993,350



市議会議員の寄附行為は禁じられています。

政治家が選挙区内の人に寄附を行うことは、選挙の有無や名義を問わず禁止されています。有権者が求めてもいけません。冠婚葬祭における贈答や、議員が自分から年賀状を差し出すことも禁止されています。



4月17日告示、24日執行の伊那市議会議員選挙で当選された議員の皆さんをご紹介します!!

